第1回 伊勢崎市部活動地域移行検討委員会 議事録

期 日 令和6年10月30日(水)15:00~16:30

会 場 伊勢崎市役所北館4階会議室

出席者(委員) 菅谷美沙都、武井義夫、平林知巳、堀田享、山田千広、狩野浩之、 宮﨑孝宏、塚原正徳、結城啓之

欠 席(委員) 吉田啓

- 1 開会
- 2 委嘱状交付
- 3 あいさつ (三好教育長)
 - ・改めまして、忙しい立場の皆様に、引き続きお願いします。
 - ・部活動地域移行は大きなテーマであり、子供たちの現状、教員の置かれた立場など 様々なことを考え、進めていかなければならない。
 - ・この後、事務局からも、いろいろな報告がなされると思う。
 - ・伊勢崎市内の中学校は12校ある。その規模、地域性、競技種目によってどう支えていくかなど、その違いが多くある中で取り組んでいかなければならない。
 - ・部活動地域移行の目指すところは、子供たちが生涯にわたってスポーツに親しむこと ができるよう、その基礎となる豊かな体験を地域としてどう支えていくかである。
 - ・子供たちの心の問題も含め、部活動において多くを教員が担ってきたが、そうした教 員の取り組みも限界がきている。
 - ・部活動地域移行が持続可能な仕組み、取り組みでなければならないことを念頭に置い た検討をお願いしたい。
 - ・他の地域で進めているよい例を、報道等で伺っている。その中でも、いろいろな課題 が出てきている。部活動地域移行により子供たちを取り巻く環境が劣悪になっては困 る。
 - ・本日の検討委員会においても、忌憚のないご意見をお願いしたい。

4 報告

- ・事務局より、今年度の部活動地域移行に係る取組について報告する。はじめに、境地 区における取組について説明する。
- ・4月に境地区の3中学校の先生方に向けて部活動地域移行に関する説明会をオンラインで実施した。部活動地域移行の考え方や方向性、合同部活動の取組を通して、地域移行に向けて段階的に進めていくことについて説明した。

- ・合同部活動の取組が顧問の負担軽減につながるのか、大会参加とのかかわりはどうな のか、けがや事故が起きた時連絡や人間関係のトラブルへの対応等の質問が出され た。
- ・説明会後、運動部毎に合同部活動の実施について話し合いを持っていただき、1 学期 は軟式野球、バスケットボール、サッカーにおいて、合同部活動を実施した。
- ・次に、地域スポーツクラブ体制整備事業の概要について説明する。
- ・本市における取組の方向性としては、学校部活動の地域連携として合同部活動を推進していくこととした。その際に、学校と連携した地域クラブを市が設置し、合同部活動で地域クラブに参加をする形とした。今後は地域の協力を得ながら、部活動指導員や部活動外部指導者を適切に配置し、子供たちの地域でのスポーツに継続して親しめる環境を整えてるとともに、教員の負担軽減にもつなげていきたいと考える。
- ・夏季休業中に、四ツ葉学園を含め、全中学校を訪問し、校長先生と地域や部活動の状況、合同部活動の実施状況、拠点校部活動に向けた考え、地域クラブへの移行の在り 方等について意見交換をした。
- ・次に、地域スポーツクラブ体制整備事業を活用した合同部活動の実施について説明する。
- ・夏季休業中の校長先生とのヒアリングをもとに、第一中と第二中のサッカー、第二中と第四中の柔道、第三中と第四中のソフトボール、境北中と境西中の野球、境北中と境南中のバスケットボール、境北中と境西中と境南中のサッカーの6つの合同部活動をモデルに、地域スポーツクラブ体制整備事業を活用した実証事業を行うこととした。国からの体制整備事業委託金を活用し、指導者への謝金の支払い、指導者や生徒の傷害保険加入の手続きや支払い等、お金の流れや運営体制、指導者の確保等に向けた関係団体との連携強化について取り組み、子供たちが地域でスポーツに継続して親しめる環境整備を進めていく。
- ・また、本市の部活動地域移行の取組を周知していくために、リーフレットを作成した。今後、市内全中学校及び小学校5・6年生の保護者を対象に配布をしていく予定である。
- ・最後に、拠点校部活動導入に向けた準備として、拠点校部活動実施要項を作成した。 拠点校部活動が進むことで、各校の部活動数が整理されるとともに、自校にない部活動にも拠点校部活動に参加することで生徒の多様なニーズに応えることができると考えている。現在、取り組んでいる合同部活動を足掛かりに拠点校部活動に移行できればと考えている。
- ・また、拠点校部活動の保護者用リーフレットを作成し、今後拠点校部活動を導入する 際に周知できるようにしている。

5 協議

(事務局)

・今年度の取り組みについて、事務局から説明があった。昨年度、学校間連携の方向 性が確認され、境地区をモデルとして合同部活動を進めていく形で実施してきた。 そして、国の地域スポーツクラブ活動体制整備事業を活用しながら現在進めてい る。

(委員)

- ・体制整備事業は、どのくらいの予算なのか。
- ・今後、地域クラブや団体が増えてくれば、さらに申請していくのか。
- ・対象となるのは合同部活動のみなのか。ほかのクラブはならないのか。

(事務局)

・合同部活動でなければならないということはない。国としては様々な対象や使い方を認めている。

(委員)

・合同部活動をやってよかったなという部分、対象者がどのように思っているのか。 我々には見えない部分があるので聞きたい。

(委員)

・本校の軟式野球部は合同でも参加している。他校の生徒と一緒に頑張っており、県 大会にも出場できた。サッカーについても大会で勝つことができた。子供たちは喜 んでやっていると考えている。

(委員)

・知り合いの保護者からもよい取り組みといった意見を耳にしている。

(事務局)

- ・指導者の確保について意見を伺いたい。
- ・先行地域では、指導者だけでなく、支援をしていただける方、マネジメントやボランティアという立場でも募集をしている例もある。
- ・地域クラブ、母体となるところは見えてきているので、どんな形で応援していただけるか。

(委員)

- ・今年度、合同部活動をやってみて、どんな指導者がいいのか。どんな人が必要なのか。意見がもらえると協力しやすい。
- ・今の合同部活動の規模が少し大きくなると、顧問以外にも必要になると思われる。

(委員)

・現状は教員が指導している。教員は競技経験も様々で全くやったことがない人もいる。 異動もある。経験のある人にお願いできるとよい。

(委員)

・県では、来年度から、指導者を登録するという取組を進めている。県の制度を利用 して指導者を見つけてるとよいのではないか。

(委員)

・合同部活動の趣旨というか、価値観がわからないと指導者の派遣ができない。例えば、技術的な部分だけの指導でよいのか、主体は顧問なのか、スポーツ協会か、地域クラブなのかなど。こういうことを教えてもらいたいというのがわかるとありがたい。

(委員)

- ・どういう指導者かを選ぶのは、合同部活動の顧問であろう。
- 伊勢崎市だけで人材バンクを作らなくてよいのか。

(委員)

・作ってもいいと思う。すでにそういう地域もある。

(委員)

・趣旨、伊勢崎市としての柱がないと、合同チームで大会に出るときにもトラブルに なると思う。例えば、大会に出られる子、出られない子が出てくるし、指導者はそ のうち勝つことを目指していく。中にはとんでもない指導者もいるかもしれない。 目指す活動に見合った指導者がいないとトラブルになる。

(事務局)

・活動の趣旨をよくご理解いただいている人にやってもらう必要がある。そのために は周知が必要となる。

(委員)

・どこに推進の母体を置いているのか。それがはっきりするとよい。

(事務局)

・教育委員会です。

(委員)

・実際、合同部活動によって教員の負担軽減になっているのか。トータル的に負担は 増していないか。

(事務局)

・学校ごとに2人顧問がいれば、必ず1人は休むよう、各校長にお願いしている。今 後、さらに関わってくれる地域の方が増えてくると、負担は減ってくる。

(委員)

・例えば、私がかかわる場合、学校の先生と話をしたり、いつどこに行くかなどすり 合わせをしたりしなければできない。その時間、予算、準備期間が問題となる。ど のような指導を求めているのか、練習だけか、大会までかなど、関わり方について も詰めていく必要がある。 ・我々から見たプレーの上手い下手も色々あるし、半年から1年は関わらないと子供 たちとのコミュニケーション、関係性を築くのが難しい。

(委員)

- 話し合いやすり合わせという部分は大切である。
- ・例えば、指導者や部員数の関係で、柔道をやりたくてもできない子をどのようにサポートしていくかがメインテーマだと考えている。
- ・そのために、今までの部活動の形から徐々に学校の枠を超えてやっていく。そこに 地域の指導者が関わっていく中で、いつの間にか地域移行が進んでいく。そのため の一歩が今行っている取り組み。一歩がないと百歩はない。
- きちんとしたポリシーがないとチャンピオンスポーツに向かってしまう可能性がある。
- ・中体連に19競技あるが、それ以外のスポーツや文化部も含めて考えていく必要がある。
- ・上武大学の学生に教えてもらい、とてもよかったと本校の生徒が言っていた。全国で様々な試みをしている中、どんどん取り入れながらやっていくべき。今、対象となる合同部活動は6つだが、ここをベースとして、地域の方がどう入っていけるかと進めていけるとい。

(委員)

・色々トラブルはあるだろうが、そこに肉付けして継続してやってみる。子供も減っていくと、ほかの地域でも合同部活が出てくるだろう。一度やってみると色々分かってくるかもしれない。

(委員)

・今、境地区で取り組んでいて、もしかしたら小学校で教えていた人が関わったり、 教えてもらった子供が大きくなって教える側になるなど、地域に根差す可能性もあ る。よい事例を増やしていくことが大切だと考える。

(委員)

・我々も現場を見学したい。いつ活動があるという情報をもらえれば見に行きたい。 それもよい方法ではないか。

(委員)

・ 今ある組織を活用することは大切。伊勢崎市には上武大学などもある。眠っている 人材もいる。学校だから入りづらいということもあるのかもしれない。

(委員)

- ・保護者が入るのはどうか。地域移行と言うならば、親がまず入るべきではないか。 (委員)
 - ・現役の子供がいるか、自分の子供がいる地域に入るのか、子供がいない地域にはいるのか、様々な状況がある。

(委員)

・トラブルを起こしてしまう人も多い。

(委員)

- ・過去、トラブルを起こしてしまった人も知っている。自分の子だと親の気持ちか、 指導者の気持ちかで迷う。自分の子がいなくなってもやるという人でないと続かな い。
- ・私の場合は、子供がいなくてもやったが、だいたい自分の子がいなくなるとやめて しまう。

(委員)

・保護者には別の形で協力してもらえるとよい。

(委員)

・スポーツ少年団では、保護者が指導、審判をしている。登録してもらうとよいが、 そうでないと責任が取れない。登録することで1つのルールを設けられてよい。

(委員)

・県の人材バンクではなく、市の人材バンクの方がよい。

(委員)

・競技ごとに登録していくのがよい。

(委員)

・指導者は中立の立場でないといけない。第3者が見たときに、フィルターがかかっていることは大切。

(委員)

・とにかく広げていき、ライセンスの有り無しではなく、保護者の方にも登録しても らって増やしていければよいのではないか。

(委員)

・登録すると研修とかはあるのか。

(委員)

・伊勢崎市スポーツ協会では毎年研修をやっている。

(事務局)

- ・まとめますと、スポーツ協会にそういう登録があるので、さらに広げていこうということでよいか。
- ・次に、運営主体についてだが、指導者のこともゆくゆくは運営主体が受け持ってい くことになる。

(委員)

・だんだん地域クラブとしての活動が増えていったときに、お金を増やすことはできるか。

(事務局)

- ・ゆくゆくは補助金ではなく、自己負担となり、公のお金でということはない。今回 も少ない金額だが自己負担を求めている。
- ・実際、国の委託金だけで回すのは難しい。指導者の謝金についても、しっかり自己 負担をとって手厚く指導してもらうか、最小限にしてできるだけの指導を求めるか は、先行地域の事例でも様々である。ここでご意見を頂きたい。

(委員)

・学校のうちは自己負担が少なくてもよいが、外部に出てからはそうはいかないだろう。月々1000円などになっていくだろう。

(委員)

- ・ストレートに主体のこととなれば、財源の話になる。今、6 クラブでやっていることを今後も小さい団体で続けるか、それとも大きな団体の中に含まれる形にしていくか。
- ・中学3年生は出ていないのか。3年生も参加してよいことにしてはどうか。そうしたらその子たちからも参加費を取ることも考えられる。

(委員)

・ボランティアでは責任が取れない。大きなケガでもしたら大変だ。

(委員)

・今まで教員が担ってきた。最後はどうなるという話になってしまう。

(委員)

・全国でも色々なやり方、総合型もあるし、伊勢崎市のように小さいクラブをいくつも設置するやり方もある。1つにまとめてしまうと、委託金は少なくなってしまうのか。

(委員)

・最初、受益者負担で実施し、ゆくゆくは子供たちは無料という方向でどうか。勝ち 負けは別枠として、誰もがスポーツに取り組めるように。

(事務局)

- ・昨年度は主体を法人化していく方向性を確認し、今年度、まずはこの6つの合同部 活動という主体でやっていくということでよいか。
- ・また次回、主体については検討していきたい。

(委員)

・合同部活動の見学の話を進めてもらいたい。我々も動き出したいと思う。

(委員)

・部活動地域移行体制整備事業で今年度いろいろやってもらい、ここでも様々な議論ができた。夏に合同部活動などの話を聞いた。3年生が引退してもそれぞれ部が成り立っている学校もある。

- ・少なくとも教員の負担軽減、先々の子供と教員数の減少などを考え、現在の部活動 数は減らす必要がある。
- ・部活動の地域移行の話が出る以前に、部活動指導員の確保の課題があった。部活動の行われる時間は、平日の夕方、休日だと午前中、長期休業中も平日の午前中などである。第二の人生でという考えもあったが、今は第二、第三の人生でも仕事をする必要も出てきており、部活動の指導に当たるのが難しいことも考えられる。
- ・市内に数か所、子供たちが自力で行ける範囲に様々な競技がある。理想としては、 そういう環境をコーディネートしてくれる人がいるとよい。

(委員)

・前橋では、第二土曜と日曜の部活をやめ、様々な地域の活動に参加させる実証実験 を行っている。地域クラブと協力して、ボルダリングなど普段やっているものとは 違った競技に取り組む、チャレンジデーみたいなものを設けてはどうか。

(事務局)

- ・今年度、学校訪問をした中で、体操競技や水泳は、競技人口の減少や指導の難しさ などから、存続に課題を抱えているという話を伺った。
- ・拠点校部活動など、あるいは地域クラブが受け皿になってもらいたいという話もある。バスケはここ、バレーはここなど拠点校を決めたり、競技によっては協会に協力をいただけたりするとありがたい。

(委員)

・中体連の大会がなくなってきている。協会が主催の大会をやってもよい。クラブ連盟でチームを集めてやったこともあった。要望があれば検討していく。

(委員)

・全国大会では、水泳、ハンドボール、体操などの競技が廃止となる。それに伴い、 関東や群馬県ではどうするか検討している。競技人口の多い種目でも、出場枠を減 らすなど検討している。学校でも大きなうねりがある。体操など、やりたい子がで きなくなってしまうのが問題である。

(事務局)

・お互い情報交換をし、大会の在り方など合同部活動や学校のニーズと合わせて今後 検討していく。

(委員)

・この検討委員会のことがあまり周知されていない。SNS を活用できないか。様々な 意見があるだろうが、SNS を活用することで、若い人や他地域に行ってしまった人 に広がらない。もっと多様な意見を集めてはどうか。

(委員)

・つながりを考えると、スポーツ少年団や高校の関係者をこの検討委員会に呼んでは どうか。今後検討を。

6 諸連絡

(事務局)

・第2回伊勢崎市部活動地域移行検討委員会は1月31日を予定している。次回は、 来年度の取組についてお示しする予定。今後も委員の皆様のお力添えをいただきな がら、地域移行に向けた取組を進めていきたいと考えている。引き続き、ご理解と ご協力をお願いしたい。

7 閉会